

豊かな社会の実現のために ——教育、環境、人道支援を中心に社会貢献

日産自動車(株)
グローバルコミュニケーション・CSR 本部
主管 本廣好枝

日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、持続可能な社会の実現に向けて企業市民としての役割を果たしたいと願い、「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の3つの重点分野を中心に社会貢献活動に取り組んでいる。実施にあたっては、関係部署および役員による会社横断的な組織「社会貢献ステアリングコミッティ」において議論を重ね、世界各地の日産の事業所とグローバルでビジョンを共有しながら、それぞれの国や地域の実情、ニーズに合った活動を展開している。グローバルでの活動について、具体的な事例を紹介したい。

良書を次世代に伝える

次世代を担う子どもたちが幼い時期から良書に触れることは、創造力や感性を養う上でとても重要と考え、日本においては、財団法人大阪国際児童文学館とともに「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を開催。本グランプリはアマチュア作家による創作童話と絵本のコンテストで、子どもたちに良質な童話や絵本を届けることを目的として1984年にスタートし、以来、数多くの優秀作

品を輩出している。日産では大賞作品を毎年出版すると同時に、販売会社を通じて全国の公立図書館(約3400館)や幼稚園(約680園)に寄贈しており、累計寄贈冊数は約16万8000冊に上る。

また北米日産会社(NNA)では、就学前の子どもたちに書籍を贈るガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金(GBBF)の活動を支援。GBBFは幼児教育の振興を目的に、北米日産が本社を構えるテネシー州にて2004年に創設されている。NNAでは08年度に14万ドル、09年度は10万ドルの資金協力を実施している。

タイのサイアム日産(現タイ日産自動車)においては、日産自動車がスマトラ沖地震の際に支援をおこなった移動図書館事業を継続支援し、2台目の移動図書館車を08年12月に寄贈した。これにより、より多くの児童たちが絵本など良書に



寄贈された絵本を楽しむ親子
(米・テネシー州)



「ニッサン童話と絵本のグランプリ」出版作品と図書館での寄贈式



タイの移動図書館車

触れる機会を提供し続けている。

社員による住宅建設支援活動

NNAは、NGOのハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップを通じて、災害や貧困などの理由により家を持たない人びとに住まいを安価で提供する支援活動を、06年から継続している。09年度は100万ドルの資金提供をおこない、米国およびカナダに12軒の住居を建設。さらに、建築資材を運搬するためにピックアップトラック「タイタン」7台を寄付。建設作業には、これまでに役員を含む約2500名もの日産社員がボランティアとして参加し、住人となる人びととともに汗を流し、完成の喜びを分かち合った。

また、インド日産株式会社や豪州日産自動車株式会社でも、ハビタット・フォー・ヒューマニティの現地法人と連携しながらボランティア活動や車両寄贈活動をおこない、本活動はグローバルな活動へと拡大中である。



建設作業にボランティア参加した北米日産社員

交通安全への理解を深める

日産は単にクルマを提供するだけでなく、持続可能なモビリティ社会を築くため交通安全教育にも力を入れている。

中東日産会社は09年10月、子どもたちが交通安全について楽しく学べるウェブサイトを通じて、交通ルールの基本を英語、アラビア語、フランス語で解説しているほか、パズルやぬり絵など分かりやすい内容で子どもたちが楽しみながら学

べる仕組みにしている。韓国日産株式会社でも09年に「日産キッズ・セーフティ・キャンペーン」を開始。中東日産



ウェブで交通ルールを学ぶ(中東日産)

会社と同一のコンテンツを用いて、ウェブサイトや小冊子を通じ、交通事故防止のための啓発活動をおこなっている。

日産(中国)投資有限公司では、安全意識と運転技術の向上を目的とした「日産・セーフティ・ドライビング・フォーラム」を05年から毎年開催。09年度は新たな安全技術やコンセプト、エコドライブに関する情報を広く紹介し、参加した方々に交通安全に対する理解を深めてもらう努力をしている。

*

日産は、グローバルにビジネスを展開する企業として大きな社会的責任を担っていることを自覚し、持続可能な社会の発展に寄与できるような活動を目指したいと考えている。その活動は、単に大規模な慈善活動をおこなうということではない。企業として活動をするにあたっては、「ブランド」や「信頼」というキーワードに焦点を絞り、一貫性のあるメッセージを発信できること、よりグローバルなパートナーシップを追求できること、を考えながら実行していくことが大切である。国によりさまざまなニーズがあり、統一感を出すことは大変難しいが、より一層の「日産らしさ」を追求していきたい。また、企業市民としての活動のレベルアップのためには、社員の巻き込みも必須である。社員一人ひとりがいきいきと自発的に活動に参加できるような仕組みづくりも目指したいと考えている。

◆日産の社会貢献の取り組み

<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/>